

**ビート**  
[BEAT]

**防除徹底で収量確保**

ビートは、災害級の猛暑で褐斑（かっぱん）病が流行した2023年を踏まえ、各製糖会社が生産者に防除の徹底を依頼。その努力が報われ、今季も8月に入るまで干ばつや曇天に悩まされたが、褐斑病の被害は最小限に抑えられた。

収穫作業は、トラック輸送の合理化などに合わせて年々早まっている。日本甜菜製糖の芽室製糖所は

10月5日に操業開始。集荷エリアの帯広、音更、芽室、幕別、中札内、更別の6市町村では、これに備えて10月1日から収穫作業を始めた。

20トヤ25トの輸送トラック大型化が進んでいるホクレン清水製糖工場は、平年並みの10月15日に操業開始。対応する新得、土幌、上士幌、清水の5町では10月11日ごろから収穫作業が始まった。



10月11日に収穫を始めた土幌町内のビート畑

**豆類**  
[BEANS]

**高温でサヤ付き良く**

豆類は、5月中旬から8月末までの十勝の積算気温が昨年に続いて2000度を超え、小豆を中心に中段から上段のサヤ付きが非常に良かった。

ホクレン雑穀課によると2024年産の予想生産量は、小豆23万2300俵、インゲン類18万2800俵、エンドウ類1万3700俵、色豆全体117万7600俵、大豆類223万9800俵。小豆と大豆類は例年を上回る反収（10㍏当たり収量）だが、金時は8月の降

雨が影響し、色流れや小粒な作柄が懸念されている。

十勝総合振興局の作況調査をみると、今季は5月15日に大豆の播種（はしゅ）期に入り、小豆は同26日に種まきが終了。6月頃は草丈が短く葉も少なかったが、7月前半は平均気温が平年よりかなり高く、大豆や金時は開花期を6日早く迎えた。金時は9月6日に収穫期（全体の40〜50%）、手亡は同日に収穫始（全体の5%）に入った。



5月以降の積算温度に恵まれ、サヤ付きの良かった手亡（左）と小豆

**お砂糖はやっぱり スズラン印**

**トラクター直装ユニット TDS-K-0**

ひっばりくん 定植の新時代！ 苗最大21冊搭載！

土落とし作業の省力化

土付着防止テープ (HP-16型専用)

**日本甜菜製糖株式会社**  
Nippon Beet Sugar Manufacturing Co., Ltd.

紙筒事業部 北海道営業所 上川郡清水町字清水第2線53  
☎0156-62-2024

**NITTEN PAPERPOT**

HP 公式 SNS

http://www.paperpot.jp/

**CIRCLE kiko**

**真空播種機**

C-900は、とうもろこし、大豆、小豆、ビートなどが播種できます。上記4種の播種用シードディスクは標準で付属しています。

**C-900-4G** シングルタンク仕様

**C-900-4W** ダブルタンク仕様

お問い合わせは

**サークル機工株式会社**

帯広営業所 帯広市稲田町南9線西13番地1 ☎0155-66-9451  
本社 滝川市幸町3丁目3-12 ☎0125-22-4350

サークル機工 検索 http://www.circle-kiko.co.jp/